

## 農 業 蟻 (上)

(マコック著「自然の職人」より)

酒 井 温 理

昔から蟻は農業知識を有し、穀物を収穫するものを見倣され、古文學にも蟻に関する記事極めて多く、例へば、ヴァーヅはイーニード中に、トロジャン軍の出征を収穫蟻が黄色い穀畠を襲ふに比し、ミルトンもラファエルをして生物創造記を述べしめ、天使をして膜翅類を昆蟲の筆頭におかしたのには、動物學上の卓見である。殊に蟻社會を公正、平等及び貯蓄心の型典と見たのは、當時何人も思ひ及ばなかつたところである。

第十八世紀に至り、英國の僧侶グールドは英國の蟻を研究し、収穫蟻なきを見て、遂にソロモン以下古代學者の説に對して疑をさしはさみ、その不正確を責め出した。

疑はバクテリアの如く、繁殖傳播するもので、収穫蟻に関する古人の信仰も、何時しか覆されてしまつた。佛國昆蟲學の泰斗罗トレイユは、衆人の陷れる誤を後世に傳ふるに忍びずといひ、瑞西の蟻學者ヒューベルは、研究の精密正確を以て鳴つた學者であるが、古代學者の説を放棄し、英國の僧侶カルビーも亦均しく疑を懷き、ソロモンの言を虚妄であると説くに至つた。

スミス氏聖書辭典(1868年米國版)さへも、ソロモンの言なる箴言第六章第六一八節は、蟻の巢の材料を蒐集するを見て、世人は蟻が食物を取入れるものと思ひ過れるを、其儘記せるに過ぎずとて、ソロモンの爲めに辯解してゐた位である。

此間に於ても、舊説に立戻らんとする聲は無いでもなかつた。例へば、米國宣教師ソンプソンの著「土地と書物」の如き、又伊太利南部に於ける収穫蟻を研究せる、モグリツヂの著「収穫蟻」の如きものも現はれたが、之等は學説を挽回するには力足らなかつた。かくて1880年、予の「テキサス州の農業

蟻」が出版された。

予の好奇心をそそつたものは、膜翅類專攻學者エズラ、テー、クレツソンが、予に提供せる原稿であつた。この原稿はテキサス州のリンセカム博士の筆になり、多少正確を缺くのうらみがなくはなかつたが、又多少取り所のあつたのを發見したので、予は 1877 年自らテキサス州に出張して、多年學者の否定せる事實を調査した。蟻が果して穀物を收穫するであらうか、其農業上の習慣如何いふ如き問題の解決を試みたのである。

テキサス州オーステンの西南三哩、バートン、クリーク、ヒルの麓に天幕を張つた。此處には研究すべき蟻巢が澤山あり、天幕の入口より三四歩も出づれば、幾つかの巢があり、蟻は天幕内を通り貫けて、忙しく働いてをつた。此蟻は普通のペンシルバニア黒家蟻位の大きな蟻で、全身マホガニー色にて光澤があつた。職蟻には大小二種あり、大職蟻は一寸の十六分の七、小職蟻は十六分の五位である。女王蟻は十六分の十、雄蟻は十六分の八で、共に有翅である。而して雄蟻は女王蟻と均しく、蟻の居候で、交尾期に一度巢を出づれば再び歸巢しない。此蟻を學名 *Pogonomyrmex barbatus* と呼ぶのは顯下に赤髯がふさふさとして生じてゐるが故である。

此蟻の「蟻人口」は重に職蟻にして、其數實に夥しい。而して此蟻はオーステン中何處にでもをる。街道でも、人道でも、庭でも、畑でも、ホテルの中庭でも、此蟻の活躍して居ない所はない。敷石の間のセメントの中にも出入してゐる。尤も斯かる所に於ける此蟻の勤勉は多少變つて居るので、自然的活動を研究せんせば、予が天幕を張れる所の如き廣々とした未耕地に行かねばならない。

農業蟻が、草叢の中に判然其巢を顯はして居るのは、學者の研究心をそそり、又は暗に挑戦してをる様にも思はれる。天幕の周圍に繁茂せる雜草の中に、種々の蟻庭があるが、皆平滑にして、中には雜草は生えず、大きさは様々であるも皆圓くして徑十二呎もあるものがある。農業蟻の圓庭に共通せる注目すべき三特徴がある。1. 農業蟻は日當りを好み、日蔭を嫌ふが故に、其圓庭は必ず廣々とした原にあること。2. 入口（孔）は必ず圓庭の眞中にあ

るこゝ。3. 圓庭より大小長短様々ある蟻路數條が圓庭外の草叢中に放射し  
をるこゝ。以上三つである。又圓庭は多く平滑なるも、時には巢内より搬出  
せる小石を穴口の周圍に圓錐狀に積み、又は砂を圓柱狀に盛りあげ、其上の  
圓狀のこゝろに穴口を開いてゐるこゝもある。

今一つ著しきこゝは、圓庭は平滑にして、草一本生えるを許さず綺麗にし  
ておくのに、あつちこつちの巢にては、其圓庭の穴口の周圍に *Aristida*  
*oligantha*, *Aristida stricta* まで、俗に蟻稻とか針草と稱する草が、簇生しをる  
こゝである。他の草は一本として圓庭内に生じないのに、又蟻は此圓庭を綺  
麗に掃除しておく力は十分にあるのであるから、蟻がこの草の繁生を認容して  
をるこゝは明である。此二種の種子は蟻が収集して地下の穀房に貯藏してゐ  
る。此蟻の圓庭はよくセージとかデーザーの如き草の繁茂せる中にあるが、  
土壤の豊饒さ、半熱帯の太陽の力さにて、高さ數呎、徑拇指大さなれる草を  
も、農業蟻は人間が山林を開墾する如く易々さ除去する。而して草一本其圓  
庭に生長するを許さないのである。試みに農業蟻の巢を探さんに、「開墾地」  
の周圍の雜草が、禁庭を侵さんとするのを、喰止める爲めに蟻の努力した跡  
を明に見るを得るのであるから、斯る能力のある蟻が、圓庭内に蟻稻の侵入  
し來るを防ぎ得ざる筈がない。事實晩秋蟻稻の種子が成熟すれば、蟻は枯葉  
を除き、次の收穫の準備に取りかかるさ云はれてをる。これが此の蟻即  
*Pogonomyrmex barbatus* が農業蟻と稱するに至つた所以である。此蟻が實  
際種子を蒔くこゝろは少くも著者には、見られない、然れども蟻稻を蟻巢  
の境内に生長せしめ、後其實を利用するのは事實である。(續く)

## キクスイ(菊虎)に對する知見の變遷

矢野宗幹

五月にはキクスイの成蟲が現はれて菊の芽を害する。其でこの蟲に就いて